

MOKU PRESCHOOL PLUS NEWS

3月 (2019)

子どもに多い中耳炎

子どもは風邪を引いたときなどに、耳の病気を併発することがよくあります。
年齢が低いほど症状があつてもうまく伝えられない場合が多く、大人が気付きにくいことがあるので注意が必要です。



急性中耳炎について

耳をよくいじる



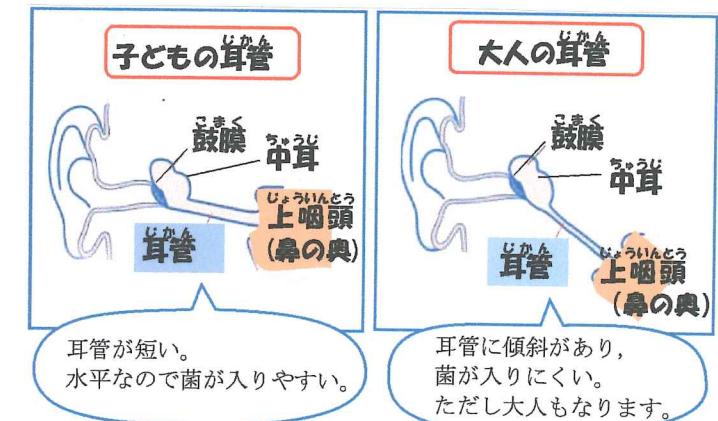
あれ？と思ったら、耳鼻咽喉科を受診しましょう。

《原因》

感冒に伴って、鼻の奥と耳をつなぐ耳管を伝わって、ウイルスや細菌が中耳に入ることが原因で起こります。小さな子どもは、耳管が短く、咽頭に対してほぼ水平に近い角度にあるため、菌が中耳に入りやすく、急性中耳炎になりやすいのです。

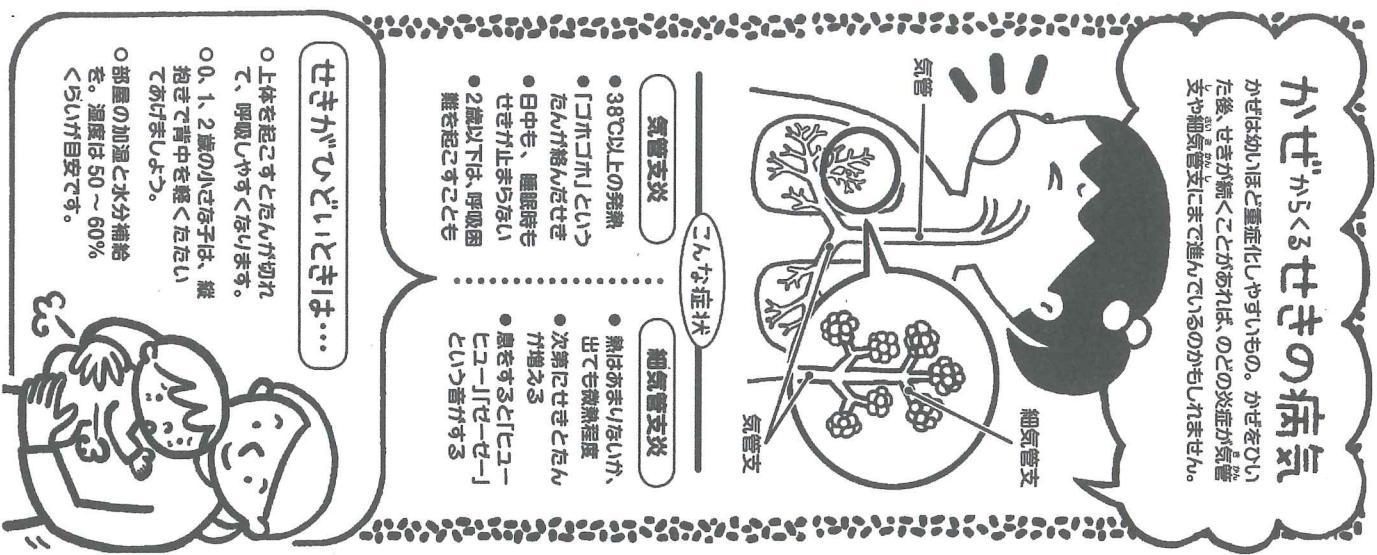
《治療方法》

痛み止めや抗菌剤などのお薬を使います。膿がたくさんたまっている場合は、鼓膜を切開して膿の逃げ道を作り、痛みや熱を和らげることもあります。鼻水をこまめに吸ってあげることも大切です。多くは1~2週間ほどで治りますが、もっと長引く場合もあります。



かぜからくるせきの病気

かぜは幼いほど重症化しやすいもの。かぜをひいた後、せきが軽くがあれば、どの炎症が気管支や細気管支にまで進んでいるかもしません。



春先のかぜ...

まだ朝夕は気温が低く、日中の気温差が大きいために、かぜをひいてしまう子どもが多くなっています。環境の変化で緊張が高まり、心身ともに疲れがたまっているのかもしれません。初めて集団生活に入ったお子さんは特に、おうちでゆったりと過ごしてくださいね。



熱がなくても、せきや鼻水が出るときは
体調が不安定です。安静にして過ごしましょう。

耳のぞいてみましょう

子どもの耳を観察してみてください。びっくりするほど耳あかが詰まっていることがあります。たまりすぎていると聞こえが悪くなったり、とくにこになると水でぶやけて鼓膜を圧迫したり、ときに細菌が繁殖して、外耳炎を起こすこともあります。



病児保育利用者数（2月1日～27日）

病児 29名、病後児 5名

内訳：インフルエンザA型、インフルエンザB型、中耳炎、手足口病、感冒、気管支炎、結膜炎、咽頭炎、頭部外傷

- 上体を起こすとなんが切れ
て、呼吸しやすくなります。
- 0、1、2歳の小さな子は、誰抱きて背中を擦くたたい
てあげましょつ。
- 部屋の加湿と水分補給
くらいが目安です。

もく保育園プラス 病児・病後児保育室 〒670-0945 姫路市北条梅原町 1299-3 TEL:079-222-0061